

R1 SG 台湾 FW

11/7 (木)

今日は故宮博物院と九份に行きました。

朝の健康観察では、皆元気。お腹が空いて大変とのこと。空腹は元気な証拠なので、嬉しい報告です。朝食のバイキングをモリモリ食べて、ガイドのコウさんを待ちました。

公共交通機関を使って、故宮博物院へ。中国 5,000 年の歴史が生み出した素晴らしい美術品の数々が、なぜ台湾のこの地に所蔵されているのか、その歴史を縦軸に、そしてそれぞれの展示品の文化的な価値を横軸に、コウさんはわかりやすく教えてくれました。時折「おー！！」という歓声が生徒からあがり、深い学びが得られていることを実感します。

本物に触れ、その価値を理解することが、「目利き」の第一歩と言われますが、生徒達はまさにその手ほどきを受けたのでしょう。

ギフトショップでは、ここでしか買えないプレミア感を醸し出すお土産を、生徒達は一心に探していました。少々割高な価格設定なので、彼女達の経済観念が光ります。

バスとモノレールを乗り継いで SOGO に行き、昼食。

その後、九份へ向かいました。貸切バスではなく、公営バスを使いました。平日ですが道路は混み合い、台北市を抜けるのにかなり時間がかかった印象です。郊外に出るとバスは加速、一路目的地へ進みます。

都会の景色から緑豊かな田舎の景色へと移り変わり、次第に道路は険しい山道に。狭いワインディングロードを高速で突き抜ける台湾のバスの運転手さんの心意気に、同じドライバーとして畏怖を覚えながらも、ウトウトし始めると、山の中に赤と黄色で彩られた一角が現れました。ワクワクが止まらないとは、このことでしょうか。

遂に九份にたどり着きました。京都は清水の二年坂を思わせる活況、狭い石畳の坂道に、建物や店が立ち並びます。石をくりぬいた洞窟の中にお店があったり、一見すると不安定な土台の上に木造の建物がそびえ立ったり。ゆばーばの宿のモデルになった建物は流石に圧巻でした。生徒達は特別な空間の中で、写真を撮ったり、タピオカを頼んだり、有名なおしるこを飲んだり、思い思

いに時間を過ごしました。

千尋のお父さんが豚に変わってしまったのも、沿道の露店の充実さを見れば、然もありなん。皆も豚にならないように気をつけましょう。

ハイライトはやはり、赤提灯が点滅する夕方です。幻想的な雰囲気街を彩りました。それまでは平日とあってそれほど混み合うこともなく楽しめていましたが、人がいつの間にかに増えて、満員電車の様相を呈しました。しかしこれも九份名物。心地よい疲れとともに帰路に着きました。

